英語教育
ENGLISH CLASSWORK

英語指導の可能性を広げる情報誌

2019
通巻550号
Vol.71-2

CONTENTS

巻頭言　卯城 祐司 ― 1

中英特集① 新学習指導要領を読み解く

言語活動を重視した授業改善に向けて
大牛 英則 ― 2

CAN-DO と CEFR の対応
久保野 雅史 ― 4

コミュニケーション学から見た外国語科の「見方・考え方」
吉武 正樹 ― 6

中英特集② 中学校英語は難しくなる?

これまでの「授業観」「指導観」を見直す機会に
田村 岳充 ― 8

すぐに始めよう!　「即興」への取り組み
大塚 謙二 ― 10

Teacher's Forum

本文を使ったシャドーイングと「がや読み」
楠本 正義 ― 12

より系統的な帯活動を目指して
野口 雅史 ― 13

連載① AI vs. 英語教育　「自動翻訳機」との付き合い方

自動翻訳機で「言語力」を鍛える
中嶋 洋一 ― 14

連載② 指導書・副教材活用法

スパイラル・ワークシートを使って語彙力アップ
北原 延晃 ― 15

英語教育時評　高見 佐知 ― 16

開隆堂

コミュニケーション活動に最適!! 表はイラスト,裏は動詞（句）

全国の多くの先生方の声にお応えして,SUNSHINE ENGLISH COURSE 1からついに単体で発売!!

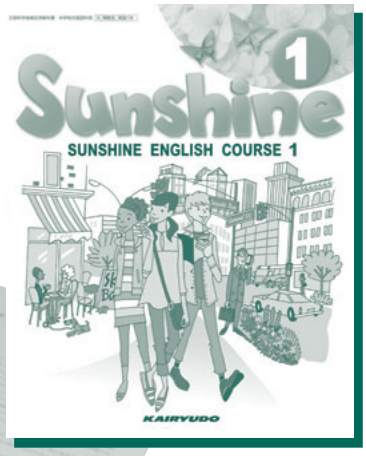
アクションカード・セット

★英語教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1についている「アクションカード」がついに単品で発売されました！

★新事項の置換練習，インフォメーション・ギャップ活動，自己表現のヒントなど，多彩に使えます。

★オモテ面に動作を表す絵，ウラ面に動詞と名詞を組合わせた文字を示したカードです。

【アクションカード・セット】
北原 延晃, 開隆堂編集部 著
定価 本体2,700円＋税
【セットの内容】
1. 説明書『アクションカードの使い方』
2. 指導用アクションカード36枚1セット
3. アクションカード4枚1組×40セット



好評発売中

KAIRYUDO
開隆堂出版株式会社
本　社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155

発行物のご案内はホームページでご覧いただけます。
http://www.kairyudo.co.jp/

巻頭言 Kantogen

Two Stars and a Wish.

卯城 祐司（筑波大学教授）

有森裕子，高橋尚子らオリンピックのマラソンでメダリストを育てた故小出義雄監督は，「ほめ上手」で定評があった。練習で伴走する際も，「いいよ，いいよ，最高の走りをしているよ」とのせていく。高橋尚子には，「おまえは，世界一になれる！」と 365 日言い続け，「あれ，もしかしたら」とその気にさせて，金メダルをとらせた。

一方，英語の授業はどうだろう。「評価」のための授業となり，「見とることができない活動はやらない」「教えてもいない，まだ育ってもいないことを，すぐに評価する」ことはないだろうか。また，発音や文法など細かい言語的な間違いばかりをあれこれ指摘して，生徒たちのやる気をなくさせてはいないだろうか。

海外の教室ではよく，Two stars and a wish. という言葉を聞く。生徒同士でコメントをし合うときに，改善が必要な点は１つに留め，よかった点を２つ伝えるというものである。しかも，改善が必要な点は「悪い点」ではなく，「紹介してくれた趣味のサッカーについて，もう少し詳しく話してほしい」など，次の機会によりよい表現を目指すポイントを伝え合っている。相手の立場に立ってコメントしようとする，この共感的な姿勢がコミュニケーション活動をさらに奏功させているように感じる。

小出監督は「ほめるときには，お世辞でほめるんじゃなくて，腹の底からそう思って相手の心に響くようにほめる。叱るときには感情的に叱るんじゃなくて，相手が納得できるような意味のある叱り方をする。」ことを心がけていたそうでもある。「事前にやることがわかっている英文のアクセントを間違えるのは最低の準備不足」と糾弾し，Good., Excellent. など，機械的にほめることも多いダメ教師の私には耳が痛い。

同監督はさらに，「ほめ方もタイミング。いい事をした瞬間を見逃さずにほめる。だから観察が必要。どんな子でもほめるところはある」と語っていた。「ほかの人と比較するんじゃないよ。いつでも，自分が今よりも強くなることだけを考えなさい」という温和な声が今も聞こえるようである。

言語活動を重視した授業改善に向けて

大牛 英則
（比治山大学教授）

1. はじめに

言語活動の充実。ずいぶんと聞き慣れた感があるが，現行の中学校学習指導要領（平成20年3月告示）で特に強調されたフレーズである。

新中学校学習指導要領（平成29年7月告示）の全面実施を間近にひかえ，私たちの取り組みはどうすべきなのかを再確認したい。

2. 言語活動の充実

文部科学省は現行学習指導要領における思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実について次のように記している。少し長くなるが抜粋する。

> 学力に関する各種の調査の結果により，我が国の子どもたちの思考力・判断力・表現力等には依然課題がある。また，課題発見・解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力（クリティカル・シンキング）などの育成・習得が求められているところである。
>
> 平成20年答申においては，思考力・判断力・表現力等を育むためには，例えば，次のような学習活動が重要であり，このような活動を各教科等において行うことが不可欠であるとしている。
>
> (1) 体験から感じ取ったことを表現する
> (2) 事実を正確に理解し伝達する　＜中略＞
> (6) 互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる

これを見る限り，新学習指導要領においても言語活動が重視されているということは，現行の言語活動をさらに充実・発展させたものが求められることになる。

3. 既存授業からの脱却

新学習指導要領下での英語授業は，授業づくりの考え方を大きく転換せざるを得ないだろう。

これまでの英語授業では，①言語材料（文法事項）の理解，②演習問題，③本課本文の読解，④ 本文の内容に関するQ&A，⑤本文内容から自身の思いをつづる英作文，⑥発表活動といった学習過程が主流であった。つまり，**「理解→練習→準備→発表」**という流れの中で，練習・準備したことを発表することが目的だった。

しかし今後は，「目的」「場面」「相手」を想定した「即興的なやり取り」を含む言語活動が必要となり，そのやり取りの中で思考力・判断力・表現力等が育成されることになる。

また，小学校に外国語科が新設されることによって，①場面の中で言語材料の理解，②タスク（目的）達成のための練習とやり取り，③やり取りを通して慣れ親しんだ表現の書き写しや作文（作品づくり），という一連の学習過程を通して英語を学んできた生徒たちを中学校は迎えることになる。つまり，**「場面の中で理解→やり取り→発表→タスク達成」**という学習過程を中学校でも踏襲していくことになる。

ここに，英語教師として，授業づくりにおける発想の転換が必要になると考える。既存授業では単元の最終的な目標は「自身の考えを発信すること」であったのに対して，今後は「他者とのやり取りを通して自身の考えを練り上げ，タスクを達成する」ことになる。

4. ある中学校で

次の会話を読者の方々はどう思われるだろう。

（健が陽子に電話をしている）
Ken: What are you doing, Yoko?
Yoko: Hi, Ken. I'm playing tennis now.
Ken: OK, bye.
Yoko: Bye.

先日訪問した中学校授業（ターゲットとする言語材料は現在進行形）の１コマである。「相手が何をしているかたずね，遊ぶ約束を取り付ける」というペア活動である。電話を受けた生徒の陽子は，友だちの健が次に何を言おうとしているのかわかっているので，冗談で（誘いを断ろうとして）I'm playing tennis now. と答えた。参観されていた先生方から笑いがおこり，授業者からはVery good! という評価を得て，２人は満足そうに着席した。

参観していて次のような疑問がわいた。

①この２人は声だけで相手がわかる間柄なのか。
②電話で話しながら I'm playing tennis. と答えるのはどんな状況だろうか。
③ Ken は用件（何のために電話したか）を伝えてないのに OK, bye. でよかったのか。
④ 評価が Very good. で本当によいのか。

生徒同士の簡単なペア活動であるにしても，この会話には「場面」や「状況」，さらには，なぜ陽子を誘うために電話するのか，という「目的（必然性）」がなく，実際の場面においては非常に不自然である。健はただ What are you doing now? を使わなければならないので使った。それに対して陽子は現在進行形の文で答えなければならないので答えた。それに尽きる。上の会話をもって，生徒は現在進行形が使えるようになったかは疑問である。

5. おわりに

ターゲットとする言語材料は場面の中で理解させ，何度も使いながら（間違いを何度も経験させ）定着させたいものである。そのような授業づくりにおいて，単元の最終目標をしっかりと認識し，より現実的で，実現可能なタスクを設定する必要がある。

そこで今後の英語教師にとって「肝（きも）」となるのは，**「いかに生徒の実際の言語使用経験に近いコミュニケーション活動をバリエーション豊かに設定するか」**である。

生徒が「話したい，伝えたい」と思えるようなタスクの創造のために，次の７点を心がけたい。

1. タスクを，生徒の実際の生活に即した必然性のあるものとし，できる限り詳細に設定する。
2. それぞれの学習段階においてなされる練習・準備はタスク達成のために必要なものである。
3. 生徒が上記 2. を常に意識している状態をつくる。
4. 生徒が行う「やり取り」はできるだけ可視化させ，自分の間違いを認識・修正させる。
5. ターゲットとする言語材料だけに限定せず，既習のものを含めて何度も使う機会を与える。
6. 伝えられた内容は，リテリング（再話）などの活動を通して再発信する機会をつくる。
7. 英語を使う主体はあくまでも生徒であることを認識し，教師は「英語を使うモデル」として豊富なバリエーションを提示する。

生徒が英語を使うことを特別と感じない授業，それこそがこれから求められる英語授業である。

●参考文献
「言語活動の充実に関する指導事例集　～思考力，判断力，表現力の育成に向けて～【中学校版】」平成 23 年５月，文部科学省.

CAN-DO と CEFR の対応

久保野 雅史
（神奈川大学教授）

1. CAN-DO とは

CAN-DO リストは，can-do descriptors（能力記述文）と呼ばれる，「学習したあとに言語を使って何ができるようになるか」を「～することができる」という形で具体的に記述したものをリスト化したものです。CAN-DO リスト作成の取り組みは，2011 年に発表された「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」の中で，「中・高等学校では，各学校が，学習指導要領に基づき，生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を『CAN-DO リスト』の形で具体的に設定すること」という提言がなされたことを受け，文部科学省が 2013 年に「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」を発表したことによって本格化しました。

CAN-DO リストの役割は，言語を用いて「どのような行動ができるか」を示すことです。従って「教科書に出てきた単語の意味がすべて言える」「教科書で学んだ文法についてすべて説明できる」のような目標とは異なります。

CAN-DO リストを作成する際には，生徒・児童の学習状況や地域の実態等を踏まえたうえで，「卒業時の学習到達目標」というゴールをまず設定し，それに至る過程を逆算する形で各学年そして各学期の到達目標を設定する必要があります。*Sunshine English Course* では，従来から My Project という形で到達目標を具体的な活動にして示しているので，CAN-DO リスト作成のサンプルとして活用できるはずです。

到達目標を示す能力記述文は，「どのような条件」のもとで，「どのような内容」について「どのような行動」ができるか，といった要素を盛り込むことで具体性を高めることができます。

能力記述文の例として，文部科学省が作成している小学校外国語科における評価基準案の一部を見てみましょう。

○聞くこと

ア　ゆっくりはっきりと話されれば，自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

イ　ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

ウ　ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，短い話の概要を捉えることができるようにする。

○話すこと［やり取り］

ア　基本的な表現を用いて指示・依頼をしたり，それらに応じたりすることができるようにする。

イ　日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

ウ　自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。

○話すこと［発表］

ア　日常生活に関する身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用

いて話すことができるようにする。

イ　自分のことについて，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

ウ　身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

2. CEFR と学習指導要領

CEFR は，Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessment（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠）の頭文字を取った頭字語です。CEFR は，大学入試で外部検定試験を導入することが決まった際に，英検，GTEC，TOEFL などのスコアを一元的に比較するための尺度として使用されていることからも注目を集めています。

改訂された学習指導要領（以下，新指導要領）では，小学校・中学校・高等学校で一貫した学習到達目標を設定するために，「国際的な基準」として CEFR を参照しています。

CEFR は，2001 年に欧州評議会が複言語主義（plurilingualism）の理念のもとに発表したものです。複言語主義とは，個人が必要に応じて異なった場面で異なった言語を使ってコミュニケーションを行うことによって相互関係を築くことができる言語能力を身につけるという考え方です。外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら「学び・教え・評価できる」ように開発されているので，外国語によるコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格として，ヨーロッパ等で幅広く導入されています。

CEFR は「その言語を使って，実際に何ができるか」を基準に以下の 6 レベルに分けられています。

○基礎段階の言語使用者

A1 初学者（学習を始めたばかりの者）

A2 初級者（学習を継続中の者）

○自立した言語使用者

B1 中級者（習得しつつある者）

B2 準上級者（実務に対応できる者）

○熟達した言語使用者

C1 上級者（優れた言語運用能力を有する者）

C2 熟練者（母語話者と遜色のない者）

（2018 年に公開された Companion Volume with New Descriptors では，11 レベルと 7 領域に細分化されています。）

CEFR では，コミュニケーション活動を，受容（reception），やり取り（interaction），産出（production）の 3 つに大別しているので，従来の 4 技能（聞く，話す，読む，書く）のうち，「話す」ことは spoken interaction（やり取り）と spoken production（発表）に分かれています。この枠組みに従って，新指導要領でも，4 技能を「5 つの領域」に分けることになりました。（「技能」でなく「領域」という用語を使っているのは，評価の観点「知識・技能」における「技能」と差別化するためではないか，と考えられます。）

CEFR では「やり取り」を，コミュニケーションにおける中枢的役割を果たすものと位置づけています。口頭のコミュニケーションの場合には，産出的活動と受容的活動が交互に行われます。対話者が同時に話し合う場合は，２つの活動が同時に行われることになります。また，聞き手は話し手の話を先回りして予測し，答えを準備するなど，複雑な活動が同時に進行します。そのため，新指導要領でも「やり取り」の重要性が強調されているのでしょう。

コミュニケーション学から見た外国語科の「見方・考え方」

吉武 正樹
（福岡教育大学教授）

「コロンブスの卵」の話を初めて耳にしたのは，確か子どもの頃に見たアニメ『タイムボカン』だった。私の専門である「コミュニケーション学」の見方・考え方は，この「コロンブスの卵」の話によく似ている。コミュニケーション学とはあらゆる「常識」を徹底的に疑って考える学問だからだ。コロンブスが卵を立ててみせたとき，彼はまさにコミュニケーション学の見方・考え方を働かせたのである。

本稿では，コミュニケーション学という迂回路を辿りつつ，英語教育において「外国語によるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせることの意味を読み解いてみたい。

コミュニケーション学とは?

コミュニケーション学は，「意味」が生成される過程を探求する学問だ。その射程は，言語に限らず，心理，社会，文化，政治など，実に広い。「私はトラだ」という発言は，常識的には「嘘」だが，「私は猪！」などと続くと自然に「寅年生まれ」という意味になる。また，日本の常識では身長 190 cm の人は「背が高い」が，アメリカのプロバスケットボール選手に囲まれると「背が低い」人になる。つまり，比較する相手次第で 190 cm の意味が変化する（アイデンティティもコミュニケーション現象である）。

常識とは，「1 つに凝り固まった意味」のことだ。コミュニケーション学はこの「当たり前」を疑うことで，多くの示唆をもたらしてくれる。

想像していたコミュニケーション学のイメージとかけ離れすぎて，戸惑う方も多いだろう。これ以上の紹介は割愛し，これより，「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」（詳細は『学習指導要領中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』（以下『解説』）pp.10-11）の意味を，コミュニケーション学的に読み解いていこう。

1. 心身モードの体得を

『解説』に，「外国語やその背景にある文化を理解する」（p.10）という補足がある。コミュニケーション学的には，文化とは，言語や人間から切り離され，その背後にある景色ではない。そうではなく，体得した言語を通じて，私たちの内側（「脳」と「身体」）からコミュニケーションの在り方を積極的に規定する。ここではそれを「**心身モード**」と呼ぼう。

例えば，日本語と英語では，求められる身体感覚が異なる。拍にもとづく日本語は，俳句や能，日本語ラップのように音がペタペタと横に広がる，「横揺れ系」のリズム感を要する。一方，節で構成され，強弱が等間隔でくり返される英語は，チャンツや英語ラップのように「縦揺れ系」のリズム感をもつ。

> **●日本語の「横揺れ系」リズム**（タタタタタン）
> アメニモマケズ カゼニモマケズ
> （宮沢賢治『雨ニモマケズ』）
>
> **●英語の「縦揺れ系」リズム**（タン，タタタン）
> （強勢；等間隔）
> What do you like a……bout your town?
> （*We Can! 2* Unit 4）

また，認識や思考の作法において，日本語では，動作の責任主体としての主語は省略が可能で，述語は通常最後にしか明かされない。一方英語では，5 文型が示すように，基本的に SV から始まり，パラグラフ・ライティングでもトピックセンテンスが冒頭にくる。

以上，コミュニケーション学的な見方・考え方では，文化理解の鍵は，知識の獲得というより，身体感覚や色眼鏡の刷新にある。英語学習の際には，日本語の心身モードを懐柔させ，先の例のような英語の身体感覚や認識・思考の作法を，学習者に馴染ま

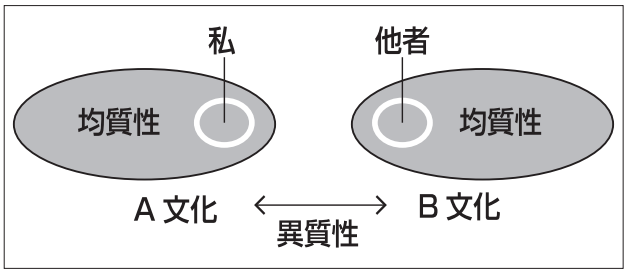
せるイメージをもちたい。また，異文化の心身モードは，棲み慣れた日本語の「常識」世界の外部へとつながる。こうした思考の拡がりや深まり，人としての成長こそ，外国語教育の醍醐味である。

2. わかりあえない「他者」との対話

「主体的・対話的で深い学び」を謳う新学習指導要領は，学びの枠組み自体を「コミュニカティブ」なものに変革しようとしている（苫野, 2014）。だが，「対話」が生じるには，独立した「主体」として個が起ちあがり，そもそも「わかりあえない」という前提から出発しなければならない（平田，2012）。

劇作家の平田オリザ（2015）は，日本には「対話」の概念がないという。平田は「対話」と「会話」を区別し，前者を「他人と交わす新たな情報交換や交流」，後者を「すでに知り合った者同士の楽しいおしゃべり」（p.16）と定義する。日本では，和を尊ぶがゆえに衝突を避け，あいまいな表現を好み，空気を読み合いがちだ。そこには，波風立てず，相手の言い分を忖度すれば互いに「わかりあえる」，という想定がある。そのような関係では「対話」という発想は醸成しにくく，文化を壊さない無難な「会話」に終始してしまう。

外国語学習における「他者」は，常識的に，文化が異なる人たちのことを指す（下図）。しかし，「自文化」対「他文化」といった，二分法的な文化観にとらわれすぎると，近くにいる誰もが「他者」である，という視点を欠いてしまう（久保田，2018）。



常識的な「文化」と「他者」

生徒に対し，同質的な集団に埋没したまま「主体的･対話的であれ」というのは矛盾である。主体的･対話的なコミュニケーションに支えられた教育のためには，互いを多様な価値観を持つ「他者」と意識させ，主体的な対話へと導くよう努めたい。

おわりに
～コミュニケーション教育としての英語教育～

コミュニケーション学からみた「外国語によるコミュニケーションの見方・考え方」の鍵は，

> 英語の心身モードに設定しつつも，「自文化」対「他文化」という構図に陥ることなく，コミュニケーションを文化内外の「わかりあえない他者との主体的な対話」と捉えなおすこと

にある。こうした見方・考え方は，多様な価値観が共存する包摂的（inclusive）な社会の実現と市民（citizen）の育成，それを支える民主主義な対話の精神へと，1本の線でつながっている。

「コミュニケーション教育」として英語教育をとらえた場合，以下の一節ほどふさわしい言葉はない。「言葉を，＜対話＞を圧殺するこの国の文化にあと数パーセント西洋的な言語観を採用すれば，もっと風通しのよい社会が，弱者が泣寝入りすることのない社会が，個人が自律しみずからの責任を引き受ける社会が実現する」（中島，1997，p.203）。そのための具体的な教育実践については，また別の機会を待つことにしたい。

●参考文献
久保田竜子（2018）『英語教育幻想』筑摩書房.
中島義道（1997）『＜対話＞のない社会―思いやりと優しさが圧殺するもの』PHP 研究所.
平田オリザ（2015）『対話のレッスン―日本人のためのコミュニケーション術』講談社.
平田オリザ（2012）『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』講談社.
苫野一徳（2014）『教育の力』講談社.

中英特集②
中学校英語は難しくなる？

Case ❶

これまでの「授業観」「指導観」を見直す機会に

田村 岳充
（宇都宮大学助教）

1.「難しい」かどうかの答えは…?

新学習指導要領の全面実施が迫っています。現学習指導要領との対照表を見ながら，指導する語彙数の増加や，新規に追加される文・文構造・文法事項の多さを目の当たりにして，2021年度から扱う内容の重さに重い気持ちになっている方もおられるかもしれません。内容の増加によって指導が難しくなるのか否かは，それぞれの「授業観」「指導観」に拠るところが大きいのではないでしょうか。

2. 授業とは何か，を問い直す ①

新学習指導要領下で増加する分も含め，全ての語彙や文法事項の一つひとつを生徒に徹底して覚えさせよう，定着させようと過度に意識しすぎてしまうと，授業はどのようなものになるでしょうか。必要以上に反復練習を課す，理解を促進させようと何度も説明をする，小テストをして定着を促す等，授業は，機械的な反復練習を中心としたトレーニング的な色合いの濃いものになりそうです。

ところで，授業は学んだことを単に身につける場なのでしょうか。言い換えれば，増加した語彙や文法事項等，内容をできるかぎり早く，正確に，身に付けるための場なのでしょうか。

3. 授業とは何か，を問い直す ②

新学習指導要領の「外国語」の「目標」には，「（前段省略）…コミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成する」とあります。その後に列挙されている3つの項目の文末に注目しても，（1）「…実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けようとする」（2）「…これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」（3）「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」とあります。

英語の授業を行う目的は，この目標を達成すること，と言っても過言ではありません。2. で触れたような，学んだことを知識として身に付ける（覚える）ことではないのです。

授業がトレーニング的な鍛錬の場となってしまうのは，新学習指導要領で指導する内容が増加したからなのでしょうか。教えるべき内容が増えるからといって，私たちの「授業観」「指導観」は急に変わるのでしょうか。もしかすると，現学習指導要領のもとで行われている授業も，語彙や文法事項等の内容を，知識として覚えさせる，定着させることに大きく寄っていたかもしれません。これまでの自分の授業がどんなものであったか，この機会に見つめ直してみましょう。

4. 言葉はどう学ばれるか

英語が苦手な生徒にも，どうにかして…と思えば思うほど，「わかりやすく教えるには」「指導の工夫をこれまで以上にしなければ」と，how to teach にばかりに気持ちが向かってしまうのではないでしょうか。また，つまずかせたくないと思うからこそ，転ばぬ先の杖とばかりに，十分すぎるほど準備を整えてしまいそうです。

ところで，英語（言葉）とは，生徒たちに，どのように身に付いていく（習得される）ものなのでしょうか。生徒は，理解可能なたくさんのインプットを浴びながら，相手とやり取りを重ね，アウトプットをしては誤りを犯し，自分が言えることと言えないことのギャップに気付きます。そして，誤りを修正しながら，より適切な表現を考え，自分のアウトプットを改善していきます。その間，対話相手の反応か

ら自分の考えや気持ちが伝わったかどうかを確認しながら，コミュニケーションの中で生きて働く知識を獲得していく…こうしたサイクルを何度もくり返しながら，英語は身に付いていくと言われています。

1時間の授業の中で，ある文法事項を丁寧に説明し，反復練習をし，定着させることができたと思えても，実際には生徒の記憶には短期間しか残らないことが多いのです。だからこそ，語彙や文法事項等が，①どんな場面で使われるのか，②どんな意味を持っているのか，③どんな働きをするのか，④綴りや形式はどうか，という4つの要素が体感できる状況を授業の中に作っていきましょう。そして，自分に関係があると感じられる，生きた場面のもとで，初めて生徒は学習内容について本当の意味で理解し，活用できるようになるのではないでしょうか。

5. 発想の転換を

学習内容が増加することを否定的に捉えるのではなく，発想を転換して見つめ直してみましょう。
今回の学習指導要領の改訂によって，小学校で，音声，文字及び符号，語，連語及び慣用表現，文及び文構造の5つの言語材料が学ばれることになります。小学校段階から言語材料に触れ始め，何度もくり返して学ぶ機会が提供される，と捉えるのです。

例えば，生徒が自己表現の幅を広げるために必要となる一般動詞について考えてみましょう。一般動詞は，基本的な動作や状態を表すものを中心に，中学校1年生で重点的に指導されますが，小学校でも学ばれます。like を例に取ってみましょう。色にまつわる表現を学習したら，自分の好きな色を言う，動物が出てきたら，自分の好きな動物を言ったり，相手の好きな動物をたずねたりする，好きな食べ物について ALT の先生に伝えたり，たずねたりする…など，様々な場面で like を含んだ表現に触れ，自分でも使ってみる経験を重ねます。

小学校では，場面や題材が大切にされるため，like が何度も登場しても，児童は「相手の好きな～は何だろう」と気になって，必要感を感じながら学ぶことができます。Do you like ～？という疑問文も，身に付けるために口に出して練習するのではなく，相手のことが知りたいから使い，使うことを通して慣れていくのです。

新学習指導要領のもとでは，単文（肯定文・否定文・疑問文），助動詞 can，5W1H の疑問詞等を学ぶことになります。現行の学習指導要領のもとでは，中学校1年生で学ぶ内容（現在進行形以外）の多くに触れ，慣れることになります。

しっかりと定着するところまでは至っていないかもしれませんが，たくさん触れ続けた経験はきっとプラスになるはずです。

6. 中学校では

小学校の流れを受け，中学校でもまずは場面設定を大切にしましょう。そのとき，前述したように，学習内容を覚えさせる，ということにとらわれすぎないことが大切です。語彙や文法事項に十分触れたあとで，間違えさせないように…ということから離れ，実際にやり取りをさせてみましょう。学習内容を分析的（文法的）に整理整頓するのは，やり取りをしたあとがよいのではないでしょうか。

「学んだことを身に付けさせる」から，「コミュニケーションの中で使いながら習熟させていく」という「授業観」「指導観」へと見方・考え方をシフトしていきましょう。このあとに続く実践事例からその具体を学びましょう。

中英特集②
中学校英語は難しくなる？

Case ❷

すぐに始めよう！「即興」への取り組み

大塚 謙二
（北海道壮瞥町立壮瞥中学校教諭）

1. はじめに

私の町では次世代を担う若者の見聞を広めるために，中学２年生全員がフィンランドへ９日間の研修旅行に派遣され，その中の４日間はホームステイをします。それがきっかけで，一人の生徒が高校進学時にフィンランドへ留学しました。彼女は中学２年の時に独学で英検２級を取得していたので英語の授業は困らないと思っていました。新学期早々，高校１年生の英語授業で行われる単語テストについてメールが来ました。「先生，今度の単語のテストは，脊髄，こめかみ，膀胱，胆石，すい臓，鼻の穴など体の部位の単語が75個もあり覚えるのが大変です。ところで，bowels と intestines の違いは何ですか」という内容でした。また，今年フィリピンから来たALT はアジア諸国の英語教育事情に詳しく，各国の英語教育レベルの高さを聞くと，日本の英語教育が近年急速に変化している状況は，やむを得ないのかもしれないと感じています。

2. 難しくなるのか？　そうでもないのか？

仮定法，使役動詞が加わり，語彙数も増加するので学習内容は高度になり，教師にとっては大きな変化ですが，生徒にとって学習の難易度は高くなるのでしょうか。小学校外国語活動が教科になり，中学校で学習していたことが形を変えて導入され，高校で学習していた内容が中学校に追加されるので，量的な変化は多くはありません。

そして，ここ数年の新入生は，英語の知識が以前よりも豊富で，これまで時間をかけていた教科書最初にある導入の数ページは簡単にできるようになりました。今後，新入生はさらに多くの語彙や表現を身に付けて来るので，中学校英語にソフトランディングできそうです。

入学時点で既に英語嫌いが増加することも懸念されますが，逆手に取ると，専門的に英語を教えている中学校の教師が，わかりやすく楽しく教えることで英語好きにさせることも可能です。ポジティブに進めていきたいものです。

3. 重点は「即興」対策！

語彙数や文法事項の増加に目を奪われがちですが，今すぐに私たち教師が注目し授業改善できる点は，話すことの中で「やり取り」「発表」として盛んに取り上げられている「即興」への対応です。これは大きな課題です。平成29年７月中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語編」では，「即興」という言葉が27回出ています。目標には，次のように書かれています（下線は筆者）。

（３）話すこと［やり取り］
　ア　関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
（４）話すこと［発表］
　ア　関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
　「関心のある事柄」とは，「話すこと［やり取り］」アと同様，例えば，スポーツ，音楽，映画，テレビ番組，学校行事，休日の計画，日常の出来事など，身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることを意味している。（中略）
　小学校では「伝えようとする内容を

整理した上で」話すのに対して，中学校では，「即興で」話すことができるようになることが求められる。したがって，事前に原稿を書いてそれを暗唱したりするのではなく，興味・関心のある事柄であれば，既習の知識や技能を生かしてその場で話せるようにする必要がある。即興で話す力については，一度の授業や言語活動で身に付くものではない。1年生から即興で話す活動に継続的に取り組ませることで，即興で話す力を高めていく必要がある。

このように，現在多くの学校で取り組んでいるスピーチなどのパフォーマンス活動は，下線部のように英文を書くことや暗記を含めた発表方法に重点を置いてきました。新学習指導要領の「話す」で目指しているのは，そのさらに上のスキルを目標にしているのです。そこで，ここ数年取り組んで見えてきた即興力を伸ばす3つのポイントについて紹介したいと思います。

（1）即興で発話する活動を毎時間行う

流暢さを高めることを目標に，英語で1分間チャットやスピーチを毎時間行うと英語を話す際の心のハードルが下がってきます。授業前半の帯活動で行うとそのあとの授業も活発になります。

1年生の最初は「ペアで小学校で学んだ英語で30秒間Q&Aを続けてみよう！」と活動すると必死に，そして楽しく会話します。また，活動を継続していると新しく学んだ表現も使い始めます。活動のヒントとして，疑問文の例文，使えそうな動詞，疑問詞などを掲示しておくと話しやすくなります。慣れてきたら少しずつチャットの時間を延ばします。

また，1年生で自己紹介のスピーチ発表が終わったら，ペアで1分間の即興スピーチにも挑戦します。テーマは「自己紹介に情報をプラス」「私の1日のスケジュールに時刻を加えて紹介」，3人称を学習したら「私の家族・友だち紹介」もできます。何度も3単現のsを使って発話すると，無意識にsを使えるようになります。過去時制を学習したら「週末や昨日の出来事」，未来時制を学習したら「今週末の予定」など，学習の進度に応じて使える文法を含んだテーマを設定することができます。

2年生で対話のつなぎ方（相づち，質問，感想）を学んだら，ペアやグループでそれを意識して使う1分間チャットを行います。相手の答えに関連した質問で話題を広げていくようにさせると，さらにコミュニケーション能力が高まります。

（2）正しい英文に触れる

即興で話すためには，やはり正確な英文に触れておく必要があります。それには教科書本文の正しい英文に触れて覚えることが望まれます。句，文章のかたまりを覚えると文法処理抜きの発話ができる基礎力が高まります。私は日本語訳を見ながら英文を再生する活動を通して語彙や語順に着目させる練習をしていますが，この活動で英語を話すときの文章・表現のレパートリーを増やしています。

（3）即座に使用できる文法知識を深める

明示的文法知識は自身の発話をモニターし，正確さを高めます。また，対話で修正フィードバックを得たときに自分の間違いに気づく場面が増えるでしょう。

私は授業の最初の5分で，3年間の教科書に出てくる文法とその例文を一覧表にしたプリントを使い，一問一答形式でチェックするペア活動をしています。ある時は文法を使い，ある時はその例文の単語を置き換えて英語を発話するのです。1つの項目を15回は反復するので，内容が定着します。

このように，正確さと流暢さを高める活動を通して基礎力を高めていくと，最初は単語の羅列だった生徒の英語力は，目に見えて向上していきます。ここにご紹介した活動は楽しみながら取り組めるものばかりなので，是非，先生たちのアレンジを加えて授業で継続的に行ってみてください。

本文を使ったシャドーイングと「がや読み」

～即興的なスピーキングへの橋渡し～

楠本 正義（北海道札幌市立栄南中学校教諭）

「音読の先の活動まで手がまわらない」

そんな悩みから生まれた活動を紹介する。ゴールと解決への具体策を示したい。

ゴール：

1. 正しく楽しく早く本文の内容を捉えさせる
2. 本文内容を自分ごとと捉えて表現させる

悩み：

1. 生徒が考え，練習する時間が足りない
2. 意味を考えないで音読させてしまう

解決策：

1. 考える時間が足りないのは，時間がかかる生徒への足場かけが足りていないことが大きい。トレーニングの中でもよい例を示し，触れさせる。
2. 意味を考えないのは，考える必要のない活動をしているから。インタラクションを増やした即興的な活動を入れる。
3. 普段のパフォーマンステストに，即興３人トークを入れる。達成すべきタスクと状況を理解して，タスククリアを試みる練習をさせる。

具体策（1）：シャドーイング

これは，範読のすぐあとに続いて音読する活動で，リズムや音のつながりなどを聞いてすぐに再現するトレーニングだ。１～２回行ったあとは，語句を入れ替えたり，英文を付け足したりして生徒にシャドーイングをさせる。こうすることで生徒は真剣に聞くようになるだけでなく，本文のアレンジ方法を知ることになる。アレンジした文は，なるべくALTのチェックを受けて，より自然な英文にしたい。できれば，インタラクションを生むような投げかけも組み込み，すぐにでもペアで会話をさせたい。

例：*Sunshine English Couse 1*

Program 5-1（太字部分は付け足した部分。実際にはペアで活動させる）

Amit: **Try some *nan* bread. It's two dollars for three *nans*.**

Yuki: Is this the Indian booth? **Smells good.**

Amit: Yes, it is.

Takeshi: What's this?

Amit: It's *biryani*. **In India,** we cook rice and chicken together with spices.

Takeshi: Oh, look. That's curry.

Yuki: Is that *nan*?

Amit: No, it isn't. It's *chapati*. We usually make it at home **and eat with curry. Do you like spicy food?**

具体策（2）：「がや読み」

「がや」とは，お笑い番組などで人の話にがやがや反応し，おもしろくする人たちのことである。音読においても，下の例のように，がやを取り入れた活動である。最初は，教師が教科書のどのセリフのあとに，どんな機能のがやを入れるかを指示するとよい。がやのセリフを聞き流さずに，必ず対応するようにすると，意味を考えながら楽しく読み，反応を引き出すことができる。

例：*Sunshine English Course 3*

Program 5-1（太字部分はがやと，そのがやへの反応部分）

Daisuke: Do you like Japanese food?

Pat: Yes. I like *sushi* the best. It's very popular in Australia.

Daisuke: **Tell me more.**

Pat: Well... I sometimes eat *sushi* with my family. I love salmon the best.

より系統的な帯活動を目指して

野口 雅史（神奈川県横浜市立本宿中学校教諭）

はじめに

多くの先生方が，授業に帯活動を取り入れていることと思います。歌，語彙を強化する活動，リスニングの教材，チャンツ，表現活動など種類も様々ではないでしょうか。中学生を指導するにあたり，小学校からの接続を考えた上で，3年間を見据えた指導が必要なのは言うまでもありません。そのために，帯活動をより系統的に行えないかと考えるようになりました。今回は，表現活動を扱う帯活動について書かせていただきます。

ステップ 1：Q&A

あらかじめ決められた質問と答えをペアで言い合う活動です。10 ～ 20 個ほどの Q&A 例を記入したプリントを配り，時間内に行います。Do you ～？や Are you ～？などの Yes / No で答えられる質問や，好きな教科をたずねるなど Yes / No で答えられない質問も取り入れます。慣れてきたら，応答例で示された答えに1文を足して答えるようにしたり，相手の答えに対して相づちを打ったり，Me too. など一言添えたりするように指導しています。活動後には，ペアの相手についてわかった情報を He likes ～ . や She is ～ . のように書かせることもできます。

ステップ 2：ST

先輩から教わった，Student Teacher の頭文字を取った ST という活動です。毎回の授業の担当生徒を出席番号などで決め，その生徒が考えてきた質問をクラス全体に投げかけ，各々が答える活動です。ステップ1で行ったような簡単な質問はもちろん，Open your textbook to page ～ . What are they doing? のように，教科書の写真や絵を使った質問も聞かれます。ここでも，応答に相づちを打ったり一言添えたりするよう指導しています。1対1のほとんど決められた活動であるステップ1から，全体に対して質問する活動である点と，その場で出された質問に即興で答えるという点からレベルが上がった活動になっています。

ステップ 3：フリートーク

トピックを決め，それについてペアで会話をする活動です。4 ～ 6 人のグループをつくり，1 ～ 2 分ほどで時間を区切りながら，グループ内でペアを替えて3回ほど行います。同じトピックに関する会話を複数回行うことで，回を重ねるごとに上手に言いたいことを伝えられる上に，ペアが使った表現を真似することもできます。その後，数組に発表をする機会をつくり，全体で共有します。教員は発表の様子を評価することもできます。この頃になると，例えば By the way を使って話題を転換するなど，教科書で学習したことを存分に生かせるようになっています。

ステップ 4：ライティング

ステップ3と同じようなトピックを与え，今度はライティングを行います。話していた内容を文字で書く活動です。たくさん話す機会があれば，こちらの想像以上に書く力も身に付いています。

おわりに

小学校で外国語が教科化され，中学校入学時点での英語への慣れ親しみ具合は年々進んでいっています。数年前は3年生でステップ3を行っていましたが，最近では，1年生でも可能だという話をよく聞きます。小学校との接続をより意識し，学習したこと，知っていることをフル活用して「何とか自分の気持ちを伝えたい」という気持ちを大切にして，指導を改善，継続していきたいと思っています。

自動翻訳機で「言語力」を鍛える

中嶋 洋一（関西外国語大学教授）

言葉は，いったん口から出てしまったらもう取り消せない。また，その理解は，あくまでも相手に委ねられる。それだけ言葉は「自己責任」を伴う。また，相手と臨機応変にやり取りするのがコミュニケーションである。実際，通訳者や翻訳者は，言葉をそのまま訳しているだけではない。「文化・場面・感情・コンテクスト」などを踏まえて，相手が不安を感じずに理解できるよう努力している。それだけ，個々の「母語の力」（基底能力となる読解力，表現力など）が問われるということだ。自分が使う言葉の精度を高めることは，誰にとっても喫緊の課題なのである。そこで，この「自動翻訳」の機能を利用する。つまり，「英文添削」のマイ・チューターにしてしまうのである。

Google 翻訳（無料）を例に説明しよう。Google 翻訳は AI を搭載しており，関連学習をすればするほど，精度が高くなっていくように作られている。だが，ウィキペディア同様，無数のユーザーが加筆修正をするため，おかしな変換があとを絶たないという弱点がある。よって，ひらがなは誤訳に繋がりやすいので漢字を使う，時制をはっきりさせる等々，誤訳を避けるための「ルール」があるようだ。

授業では，その弱点を生かす。ねらいは，「自動翻訳」された英文がより正しくなるように，学習者自身の日本語を edit する（誤訳させないようにする）ということだ。誤訳があったということは，元の文の構造がわかりにくかったということになる。すると，自分の思い込みや勘違いに気づける。翻訳された英文が，本当に伝えたい内容になるまで，何度でも自分の「日本語」を編集し直す。最後は自分の手で英文を仕上げる。このような訓練を通して，学習者たちは「正しく伝わる文」（翻訳ミスがない文）をより意識するようになるのではないだろうか。

連載② 指導書・副教材活用法

スパイラル・ワークシートを使って語彙力アップ

北原 延晃（東京都港区立赤坂中学校主任教諭）

2021 年度から完全実施される新学習指導要領では，これまでにない大規模な改革が行われるが，中でも語彙の増加が話題になっている。現指導要領では中学校で 1,200 語だった指導語彙が 1,600 ～ 1,800 語になる。旧学習指導要領では 900 語だったから，現行では 3 割増，新学習指導要領ではさらに 3 ～ 5 割増となる。語彙指導の充実が問われているわけである。

先生方は *Sunshine English Course* 指導書セット内の『スパイラル・ワークシート』を活用されているだろうか。このプリントは既習語と既習文法の確認のためのワークシートであるが，語彙増強にも配慮されている。以下の例をご覧いただきたい（下線部は筆者）。

（*Sunshine English Course 3*　Program 5-3）
⑥ healthy（　　）詞「　　」
名詞形を書きましょう。
healthy のように「名詞 +y」で形容詞になる例をできるだけたくさん書きましょう。
⑦ traditional（　　）詞「　　」
名詞形を書きましょう。
traditional のように「名詞 +al」で形容詞になる例をできるだけたくさん書きましょう。

このように接頭辞・接尾辞や品詞を転換することなどで，１つの語彙から複数の派生語へと生徒を誘導することができる。このような活動は授業で扱うと大変時間がかかるので，生徒が家で辞書などを使って調べさせて生徒の自学を促したい。なお，授業中の答え合わせは板書せずいちばん多く書いた生徒にどんどん言わせ，他の生徒に追加の語を求めるのがよい。

未来を創るグローバルな協働と交流を身近に楽しく

高見 佐知（公益財団法人未来教育研究所研究開発局長）

「未来教育研究所って何をしているのですか？」とよく聞かれる。研究所の理念としては，教育現場の先生方の支援を目的に，具体的には，研究助成や海外研修の実施，セミナーの開催等を行っている。特に力を入れているのは海外の教育プログラムを日本に紹介することである。

その中でも現在，重点を置いているのは，(1)「主体的・対話的で深い学び」，(2)「児童生徒のソフトスキル育成」に係るプログラムである。

(1) に関しては，「質問づくりの手法 Question Formulation Technique（以下，QFT）」のワークショップが好評である。QFT は，ボストンに本部を置く民間の研究所が 20 年以上に渡る試行錯誤のうえ，磨きあげてきたプログラムである。シンプルな構造でいて豊かな創造性を担保でき，指導計画の見通しを立てやすい。実践的で取り組みやすく，昨年ハーバード大学教育大学院も QFT オンライン講座を開講した。同教育大学院が，所属教職員以外の外部組織と協働して講座を開催するのは初めてだそうだ。質の高い構造が先生方を支え，教員経験の長短に関わらず，担当する生徒たちの特性を生かしながら，高次の 3 つの思考力（拡散思考，収束思考，メタ認知思考）を活用する授業を展開することができる。ひと工夫すれば，探究よりも習得の要素が強い外国語の学習にも適用できる。

今年はハーバード大学院の QFT 講座修了をめざす方々に準備講座も提供した。春のコースには，省庁職員や大学教員等, 多様な職種の方々が挑戦され，世界じゅうの教育関係者と交流し，学びを深められたことをとても喜んでおられた。受講生の方々を通じて学ぶ楽しさを私自身も再認識した。

また，(2) に関しては，全米最優秀高校生を輩出したことで注目された Social and Emotional Learning（以下，SEL）の学校包括的なアプローチ Responsive Classroom（生徒の主体性を育む学校）等が興味深い。ソーシャル・エモーショナルスキルのみならず，アカデミックスキル育成に関しても構造化され，体系的かつ包括的に計画されている。昨年は「ミドルスクール対象」「いじめ防止」等のワークショップを受講した。

また，直近の取り組みとしては，米国からスクールカウンセラーを迎え, ワークショップを開催した。米国のスクールカウンセラーは，主に 3 つの業務，i) 生徒への全体指導，ii) グループ指導，iii) 個別カウンセリング，を担当し，学校全体の生徒の SEL を計画し，推進する。米国には，SEL の豊かな蓄積があり，例えばハワイ州教育局が紹介するプログラムの数は 100 以上にのぼる。各学校はそれらを参照し，適宜実践する。ワークショップでは，親との離婚・死別を経験した子どもを対象としたものもあり，子どもが経験する 5 つのステージや感情の推移，グループワークの内容等を共有した。

このような海外の教育プログラムの交流を通じた国際的な協働は意義深い。かつて米国の大学院で学校管理運営を専攻していた頃，教育課題や生徒や先生の悩みは日米で差異はないと話していたが，米国のほうが政策環境は厳しい。言語化・構造化が得意で，教員の半数以上が修士を取得し圧倒的な蓄積がある米国の教育知見を，共感力が高く包括的な指導を日々遂行する日本の先生方が知れば，状況に合わせて工夫し，現場に活かして新たな視点を加えられる。日本においてもソーシャル・エモーショナルスキルはアカデミックスキルと組み合わせて今後体系化の道をたどるだろう。

また，研究所は「問うこと」を学びの中核に，オランダの「質問駆動型授業」，米国の「逆向き設計」等も紹介してきた。では英語の学びは何のため？その答えを導けるよう，生徒が自分の目標を地域，国，世界への貢献と結びつけ，使える英語を駆使して生き生きと行動し主体的に学べるよう支援したい。今年は米国国務省主催「先進的で協働的な語学教育」で 4 都市を視察する。情報をまた共有したい。

夏休みや冬・春休みの副読本として最適です！

CD付き リーディング教材

A1[2]… 定価 本体580～600円＋税　各巻A5判/40～48頁
B1…… 定価 本体600円＋税　CD1枚付き

好評発売中！ 新イージェストシリーズ

アリババと 40 人の盗賊★

- 世界の名作を，いずれも中学校段階から読めるように，やさしい英語で書き直してあります。
- CDには本文すべてを収録してありますので，目と耳で楽しみながら学習できるリーディング教材です。

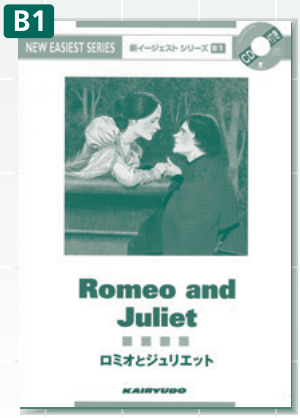
※ 読む時期の目安
A1[2]（中学2年前[後]期～）／B1（中学3年前期～）

ドン・キホーテ

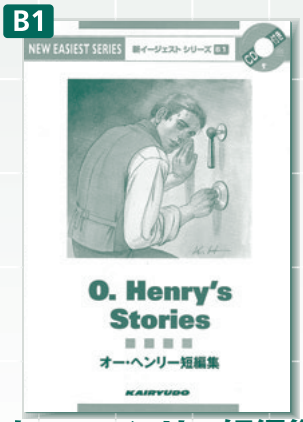
神秘の島★

イソップ物語★

耳なし芳一・雪女



ロミオとジュリエット★



オー・ヘンリー短編集★

★はワークシート付きです。

KAIRYUDO
開隆堂出版株式会社
本　社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155

発行物のご案内はホームページでご覧いただけます。
http://www.kairyudo.co.jp/

教育現場と授業名人のコラボで生まれたワークブック

わかる！
わくわく英語 ワークブック
SVC vs SVO
2層式学習で語順のつまずきを解消！

好評発売中！

A4判／144ページ ■定価　本体700円＋税

監修・編著
中嶋 洋一（関西外国語大学教授）
分担執筆
英語をオモロう教え隊

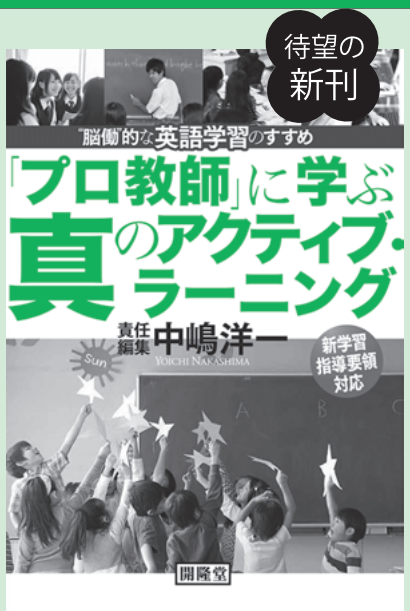
先生，何で“He is like sports.”がダメなの？

生徒の疑問に答える待望の英語教材，ついに登場！

★ SVCとSVOのちがいを画期的な２層式で学習できます。生徒の語順のつまずきはこれで解消！

★ 「語順」と「チャンク」を系統的に学習できます。

頭と心が動く英語授業を小・中・高すべての先生方へ



「プロ教師」に学ぶ 真のアクティブ・ラーニング
“脳働”的な英語学習のすすめ

A5判／288ページ■定価　本体2,700円+税

編著
中嶋　洋一（関西外国語大学教授）
直山木綿子（文部科学省視学官）
久保野雅史（神奈川大学教授）

新学習指導要領対応

登場するのは“脳働”的な授業作りの「プロ」ばかり。知りたかった秘訣が学べる名著。
12人の実践家の芸術的な授業に「科学的考察と分析」を加えたアクティブ・ラーニングの指南書。

英語教育　非売品
Vol.71-2　（通巻550号）

2019年10月28日印刷　2019年10月31日発行　編集兼発行人　大熊 隆晴
印刷所　株式会社平河工業社　〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-9
発行所　開隆堂出版株式会社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
☎(03)5684-6121（営業），5684-6118（販売），5684-6115（編集）
http://www.kairyudo.co.jp/

KAIRYUDO **開隆堂出版株式会社**
本社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1　☎03(5684)6111

北海道支社	〒060-0061	札幌市中央区南一条西6-11　札幌北辰ビル8階	☎011(231)0403
東北支社	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡4-3-10　仙台TBビル4階	☎022(742)1213
名古屋支社	〒464-0802	名古屋市千種区星が丘元町14-4　星ヶ丘プラザビル6階	☎052(789)1741
大阪支社	〒550-0013	大阪市西区新町2-10-16	☎06(6531)5782
九州支社	〒810-0075	福岡市中央区港2-1-5　FYCビル3階	☎092(733)0174